

巻頭言

「第8回日独分類シンポジウム開催報告と御礼」

北海道大学 南弘征

本学会とドイツ分類学会（Gesellschaft für Klassifikation, Gfkl）が主体となり数年単位で開催されている表題のシンポジウムについて、直近の第7回が2018年にドイツのドルトムントで開催されたことを受け、日本での第8回開催が企画され、内々には漠然と打診を頂いていたところ、2019年冬の小倉での当学会シンポジウムの際、当時の学会執行部諸先生から、本学関係者主導による、札幌での開催依頼をお受けすることになりました。あえてお名前は挙げませんが、その時点で、Local Organize Committee Chairになる先生は衆目の一致するところでしたので、漠然と、LA (Local Arrangement)としての覚悟を決めました。

しかしながら、2020年となつてすぐ、COVID-19による活動停滞が始まり、開催時期を見通せず長期化する間に、Chairと目された先生が本学を離れるという、極めて由々しき状況に至りました。当方、主体的に差配する心構えに欠け、さまざまな形で現在の学会執行部諸先生にご相談や陳情をした結果、強力なLOCを構成頂くという前提で、やむなくChairをお引き受けしました。そのため、Chairとしての一般的な負担は相当少なかったと思います。一方で、LAとしても事実上ひとりで、たとえば、ハイブリッド開催のため、相応以上の速度が期待できるインターネット環境のある会場や、それ相応の懇親会場の手配など、いろいろございました。

愚痴めいた経緯説明が長く申し訳ありません。ここから具体的な報告をさせていただきます。

当シンポジウムは9/30（土）～10/1（日）の2日間で、北海道大学 フロンティア応用研究棟にて、現地参加38名、オンライン参加6名の計44名のご参加を頂き、開催いたしました。なお、ドイツからは、当初は現地参加とされていたながら諸事情で叶わなかった方や、参加そのものをキャンセルされた方が多く、最終的には現地1名、オンライン3名の計4名でした。各日ごとに3セッション、計6セッションにおいて、計21件のご講演を頂きました。ご講演者各位、ならびに

<目次>

・巻頭言「第8回日独分類シンポジウム開催報告と御礼」	1
・大会・セミナー・シンポジウム関連報告	
大会開催報告	2
シンポジウム開催報告	3
日独分類シンポジウム開催報告	4
セミナー開催報告	5
・学会賞・フェローについて	
日本分類学会 学会賞およびフェローについて	5
日本分類学会 2023年度 学会賞・フェロー	6
日本分類学会 2023年度 フェロー授与選考理由について	6
日本分類学会 2023年度 学会賞受賞者より	7
・学会議事録等	
2023年度総会議事録	9
評議員会議事録	10
・事務局から	16

座長をお引き受け頂いた諸先生にはこの場を借りて御礼申し上げます。

Conference Dinnerはジャンプ台近くのレストラン（ヌーベルブース大倉山）でのいわゆるフルコースと決めたことを受け、前日のGet Togetherをどうするか、LOCでも種々ご意見を頂いた結果、2夜連続の洋風では日本に來られた意味もないのでは、となり、振り切った着想で、居酒屋での食べ飲み放題としましたが、あいにく前日のフライトの一部にトラブルがあったらしく、参加者数は事前連絡を下回る一方で、いわゆるアポなしで來られた参加者もおられ、結果的にことなきを得ました。

なお、ご講演内容に関し、Post Proceedings相当として、Archives of Data Science (<https://www.archivesofdatascience.org/journals/aods>) の特集号の準備をドイツ側で頂いており、まもなくご案内を差し上げることができると思います。どうぞよろしく願いたします。

冒頭に書かせていただいた通り、LOCをお引き受け頂いた諸先生には、言い尽くせないお力添えを頂きました。ご芳名をここに記させていただきます、あらためて

感謝申し上げます(シンポジウム Web ページ掲載順、敬称略)。

水田正弘(統計数理研究所), 富田誠(横浜市立大), 山本義郎(東海大), 中山厚穂(東京都立大), 宿久洋(同志社大), 秋元良友(横浜市立大)

今回はドイツ側での開催になるかと思えます。学術的な国際交流がさまざまな意味で求められる現在, このような機会を設けられた当学会諸先生の先見の明に改めて敬服するとともに, 継続する努力を怠らぬことが求められるかと思えます。今回, 当方がごくわずかでもその一翼を担えていれば, と, 振り返って思うところです。

大会・シンポジウム・セミナー関連報告

○大会開催報告

■日本分類学会第 42 回大会開催報告

大会実行委員長 栗原考次(京都女子大学)

日本分類学会第 42 回大会を 2023 年 5 月 27 日(土), 28 日(日)に京都女子大学(京都府京都市)で開催いたしました。11 件の一般講演に加え, 学生発表セッション, 特別セッションも行われ, 活発な研究発表, 情報交換ができたと思えます。みなさまのおかげで, 大変, 有益な大会になったと感じています。大会実行委員長として, ご参加いただきましたみなさま, スタッフのみなさんに感謝申し上げます。

大会における各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション

座長: 中山厚穂(東京都立大学)

・ Sparse kernel k-means for high-dimensional data

グアンシン, 寺田吉壺(大阪大学)

・ データの階層構造を考慮した Bayesian Mixture SEM について

竹島大輝(同志社大学), 土田潤(京都女子大学), 宿久洋(同志社大学)

・ 再発生存時間データに対する共有脆弱モデルの比較
植村直紀(横浜市立大学), 阿部貴行(京都女子大学)

・ グループ L0 ノルムを用いた変数選択を伴う行列分解因子分析

嶋田直也, 山本倫生(大阪大学)

一般セッション I

座長: 足立浩平(大阪大学)

・ 共通因子または特殊因子を誤差から分離したスパース因子分析

足立浩平(大阪大学)

・ 非対称クラスター分析 ACLUSKEW による社会ネットワークデータ

岡太彬訓(立教大学), 横山暁(青山学院大学)

・ スパース経時測定データに対するクラスタリング法の漸近的性質

山本倫生, 寺田吉壺(大阪大学)

・ 構造方程式モデリングにおけるパラメータ行列の同時単純構造化

山下直人(関西大学)

一般セッション II

座長: 富田誠(横浜市立大学)

・ 再生可能エネルギー需要と新電力選択の関連性に関する実証分析

坂口遥, 諏訪亜紀(京都女子大学)

・ ハンドボールの選手の出場時間のジニ係数によるチーム戦略の分析

川村陸哉, 山本義郎(東海大学)

・ 二相質問による回答誤差の低減効果

橋本実咲希, 土屋隆裕(横浜市立大学)

特別セッション

座長: 阿部貴行(京都女子大学)

・ データサイエンス学部: 最近の状況と新時代への展開

栗原考次(京都女子大学), 富田誠(横浜市立大学), 和泉志津恵(滋賀大学), 岩崎学(順天堂大学)

一般セッション III

座長: 山本倫生(大阪大学)

・ 確率予測モデルの変数に基づくキャリブレーション評価の検討

瀬戸ひろえ, 木虎秀二, 山本倫生(大阪大学)

・ 生存-経時同時モデルに対する異質な部分集団への再帰分割法

名取京太郎, 林賢一(慶應義塾大学)

・タッカー型行列分解による正準相関分析
牧野直道 (ベネッセ教育総合研究所)

・Improvement of Training Data for Autocoding on
"the National Survey of Family Income,
Consumption and Wealth" and "the Family Income
and Expenditure Survey"

床裕佳子 (統計センター), 佐藤美佳 (筑波大学),
笹島誉行 (統計センター)

○シンポジウム開催報告

■2023年度日本分類学会シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 西井龍映 (長崎大学)

2023年度日本分類学会シンポジウムを2023年12月2日(土), 12月3日(日)に長崎大学(長崎県長崎市)で開催いたしました。8件の一般講演に加え, 8件の学生発表セッション, 1件の特別講演が行われ, 有益な大会になったと感じています。シンポジウム実行委員長として, ご参加いただきましたみなさま, スタッフのみなさんに, 感謝申し上げます。

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

学生発表セッション I

座長: 山本義郎 (東海大学)

・時間依存性交絡存在下での傾向スコアの層別化に基づく IPW 推定量

鈴木徳太 (東京医科大学大学院), 田栗正隆 (東京医科大学)

・Preference-Based な操作変数の選択の違いが効果推定のバイアスに及ぼす影響とその解決策の提案

石井亮丞 (横浜市立大学), 田栗正隆 (東京医科大学), 富永亮司 (福島県立医科大学大学院), 清水さやか (京都大学大学院), 奥田忠久 (東京医科大学), 新畑覚也 (福島県立医科大学大学院), 會田哲朗 (福島県立医科大学), 池之上辰義 (滋賀大学), 栗田宜明 (福島県立医科大学大学院)

学生発表セッション II

座長: 山下直人 (関西大学)

・付加情報を考慮した非負値複合テンソル分解の提案
久保幸平 (同志社大学), 岡部格明, 大井海渡 (同志社大学大学院), 宿久洋 (同志社大学)

・半教師あり次元削減を用いた多重代入法の提案
後藤寛治, 宿久洋 (同志社大学)

・2段階教師あり次元縮約を用いた quasi-instrumental variables の抽出について

坪谷圭恵 (同志社大学大学院), 土田潤 (京都女子大学), 宿久洋 (同志社大学)

学生発表セッション III

座長: 飯塚誠也 (岡山大学)

・既知および未知の未測定交絡因子に対処する枠組みの提案と膀胱がんに対する観察研究データへの適用
吉水優里子 (横浜市立大学), 折原隼一郎, 田栗正隆 (東京医科大学)

・サッカーにおけるスタッツデータを用いたチームの特徴に関する分類

与座英之 (東海大学大学院), 山本義郎 (東海大学)

・バスケットボール競技における制限区域侵入によるその後のプレーへの影響

番井涼太 (東海大学大学院), 山本義郎 (東海大学)

特別講演

座長: 宿久洋 (同志社大学)

・データ適応的検定を用いたゲノムワイド関連解析
植木優夫 (長崎大学)

一般セッション I

座長: 前川眞一 (東京工業大学)

・異常検知手法による培養細胞画像のウイルス感染検出

須佐井亮, 永石和久, 都地昭夫, 北西由武 (塩野義製薬株式会社)

・いじめ加害者, 被害者の主観的評価と"客観的"評価
眞田英毅 (同志社大学)

・選択個数を制限した複数回答方式の特性について
橋本実咲希, 土屋隆裕 (横浜市立大学大学院)

一般セッション II

座長: 今泉忠 (多摩大学)

・多水準の質的説明変数を用いた分類木の作成
前川眞一 (東京工業大学), 瀬戸ひろえ (大阪大学大学院), 山下直人 (関西大学)

・機械学習モデルとロジスティック回帰モデルの変数ベースのキャリブレーションの比較
瀬戸ひろえ (大阪大学大学院)

・Meta-learner を用いた不均衡データに対する媒介分析の提案
嶋田直也 (大阪大学), 山本倫生 (大阪大学, 理研 AIP)

・行列分解に基づく構造方程式モデリングとその理論的性質
山下直人 (関西大学)

・ラグビーワールドカップ 2023 の南アフリカとニュージーランドの防御能力の特徴について
宮本誉久 (東海大学), 山本義郎 (東海大学)

○日独分類シンポジウム開催報告

■第8回日独分類シンポジウム開催報告

シンポジウム実行委員長 南弘征 (北海道大学)

第8回日独分類シンポジウムを2023年9月30日(土)、10月1日(日)に北海道大学(北海道札幌市)で開催いたしました。現地参加38名、オンライン参加6名の計44名のご参加をいただき、21件の講演が行われました。様々な分野からたくさんの講演があり、活発な議論が行われました。シンポジウム実行委員長として、ご参加いただきましたみなさま、スタッフのみなさんに、感謝申し上げます。

シンポジウムにおける各セッションの講演は以下の通りです。

Session 1

Chairperson: Hans A Kestler

・Asymptotic properties of the Matthews correlation coefficient Yuki Itaya(Keio university, Japan), Jun Tamura(Yokohama City University, Japan), Kenichi Hayashi(Keio university, Japan), Kouji Yamamoto(Yokohama City University, Japan)

・Causal Mediation Analysis for Binary Outcomes with the Complementary Log-Log Link Yuji Tsubota, Michio Yamamoto(Osaka University, Japan)

・Sparse rule generating fold-change classification for molecular high-throughput profiles Hans A Kestler, Annika MTU Kestler, Nensi Ikonomi, Silke D Werle, Julian D Schwab, Friedhelm Schwenker(Ulm University)

Session 2

Chairperson: Kohei Adachi

・A Comprehensive FA Model Leads to Hierarchies of PCA and FA Formulations Kohei Adachi(Osaka University)

・Nonparametric Logistic Regression with Deep Neural Networks Atsutomo Yara(Osaka University), Yoshikazu Terada(Osaka University, Riken AIP)

・One proxy for multiple unobserved confounders, what bias will be affected? Yizhou Fan(Hiroshima University), Ran Nakao(Hiroshima City University)

・Prospective detection of space-time clusters using the echelon analysis Yusuke Takemura(Kyoto Women's University, Japan), Fumio Ishioka(Okayama University, Japan), Koji Kurihara(Kyoto Women's University, Japan)

Session 3

Chairperson: Yuichi Mori

・Clustering with quantification and dimension reduction Tatsuki Akaki(Graduate School of Management, Okayama University of Science, Japan), Yuichi Mori, Masahiro Kuroda(Okayama University of Science, Japan), Masaya Iizuka(Okayama University, Japan)

・Clarification of Brand Positioning and Brand Confusion by Using Deep Learning Atsunho Nakayama(Tokyo Metropolitan University)

・Computational Dating for the Nuzi Cuneiform Archive in Ancient Mesopotamia Sumie Ueda(Institute of Statistical Mathematics), Takashi Tsuchiya(National Graduate Institute for Policy Studies), Yoshiaki Itoh(Institute of Statistical Mathematics)

· Generic vs. alternative-specific price parameters in price-only conjoint designs Paetz, Friederike, Steiner, Winfried J. (Clausthal University of Technology), Kurz, Peter (bms marketing research & strategy)

Session 4

Chairperson: Andreas Geyer-Schulz

· Improvement accuracy of multinomial logit models for statistical matching using data transformation Isao Takabe (Rissho University, Japan)

· Bayesian Variable Selection for Health Data Analysis with Missing Values Azman Nads (Hiroshima University, Japan and Mindanao State University Tawi-Tawi College of Technology and Oceanography, Philippines), Daniel Andrade (Hiroshima University)

· sgX: A Family of R-Packages for Genetic and Evolutionary Algorithms with Multiple Genome Representations Andreas Geyer-Schulz (Karlsruhe Institute of Technology (KIT))

Session 5

Chairperson: Hiroshi Yadohisa

· Matrix decomposition structural equation modeling as an alternative to covariance structure analysis Naoto Yamashita (Kansai University)

· Variable Selection Methods in Factor Analysis via the Group L0 Norm Naoya Shimada (Osaka University), Michio Yamamoto (Osaka University / RIKEN AIP)

· Asymmetric Multidimensional Scaling Using Quantile Norm Jun Tsuchida (Kyoto Women's University, Japan), Hiroshi Yadohisa (Doshisha University, Japan)

· Proposal of new similarity indices "cluster center-of-gravity distance" and "cluster difference degree" and similarity cluster identification algorithm for comparing cluster analysis results of different survey years data Atsushi Kimura (The National Statistics Center, Japan), Hitoshi Motoyama (Aoyama Gakuin University, Japan)

Session 6

Chairperson: Adalbert F. X. Wilhelm

· Tackling practical issues in clustering mixed-type data by the k-prototype algorithm Adalbert F. X. Wilhelm (Constructor University), Rabea Aschenbruck, Gero Szepannek (Stralsund University of Applied Sciences)

· Semi-orthogonal Nonnegative Matrix Factorization with stick-breaking process Hiroyasu Abe (Wakayama Medical University)

○セミナー開催報告

■2023年度 第1回データ分析セミナー

久保田貴文 (多摩大学)

2023年度第1回データ分析セミナーを2023年6月17日(土)と24日(土)の2日間、Zoomのオンラインにて開催された。

セミナーでは、人を対象とした実験・調査の手法のひとつとしてオンライン実験について、Pythonのライブラリであり、オンライン実験プログラムの一つであるoTreeを用いて実験プログラムを作成した。

セミナーは以下の通り、1日目、2日目の二部構成で開催した。

【1日目：6月17日】

セミナー担当講師：後藤晶 (明治大学)

- 午前 (10:00-12:00) : 基礎編

はじめに、午前中には1人で個人の好みを尋ねるようなアンケートを作成した。

- 午後 (10:00-12:00) : 応用編

続いて、複数人によるインタラクションのある経済ゲーム実験を行った。具体的には、独裁者ゲームおよび公共財ゲームを取り上げた。

【2日目：6月24日】

セミナー担当講師：後藤晶 (明治大学)

Rを用いた基本的な分析として、前回作成した実験プログラムをもとに行ったオンライン実験の結果を分析した。

主に基本的な分析手法に着目して、t検定や(単・重)回帰分析の方法について紹介した。実験作成については、Pythonで行い、分析についてはR言語を用いた。

日本分類学会学会賞およびフェローについて

会長 宿久洋

日本分類学会では、学会賞として「貢献賞」「論文賞」「奨励賞」の3つの賞が設けられています。また、2016年度より「分類に関する研究の発展、学会活動、関連

事業に多大な功績のあった方」を授与対象としたフェロー授与制度を設置しています。

2023年度は次の方々が学会賞、フェローの称号を授与されました。

○日本分類学会 2023年度 学会賞・フェロー

2023年度の学会賞受賞者として、貢献賞には栗原考次会員、論文賞には竹村祐亮会員、石岡文生会員、栗原考次会員、奨励賞には石本翔真会員が選ばれ、2023年5月28日に開催された2023年度総会で授賞式が行われました。また、同総会において、大津起夫会員にフェローの称号が授与されました。

[貢献賞]

栗原考次 会員 (京都女子大学)

主な選考理由

栗原考次氏は、Echelon解析法に関して日本発の開発と展開に取り組むとともに、本手法の応用を通じてさまざまな分野への優れた研究を行われ、これにより分類学への発展に寄与されています。また、日本分類学会が関係するIFCSなどの国際学会においても積極的にJCSのセッションを企画・構成されるなど、日本の分類研究が国際的に評価されることに努めてこられました。これらの研究を促進する一方で、日本分類学会会長としても日本分類学会の発展に寄与されました。

同氏の研究活動及び学会における指導、育成等の活動による「分類に関する研究の発展」への貢献は多大であることから、貢献賞を授与しました。

[論文賞]

竹村祐亮 会員 (京都女子大学)、石岡文生 会員 (岡山大学)、栗原考次 会員 (京都女子大学)

主な選考理由

研究内容が分類やデータ分析に関係した近年の論文について、内容や引用などを踏まえて選考した結果、以下の論文が選出されました。

Yusuke Takemura, Fumio Ishioka & Koji Kurihara (2022). Detection of space-time clusters using a topological hierarchy for geospatial data on COVID-19 in Japan. *Japanese Journal of Statistics and Data Science*, 5(1):279–301.

本論文は、COVID-19に関する変容データを時空間クラスターモデルで扱ったものです。近年、COVID-19を扱った論文は数多く散見されますが、本論文はCOVID-19の現象解析に関し、時空間でのクラスター分析として扱う方法を提案しています。これは、従来のクラスター分析を適用した方法とは質的にも異なり、より広い一般性をもつ方法としても高く評価されます。

以上の点から、本論文を執筆した竹村祐亮氏、石岡文生氏、栗原考次氏に論文賞を授与しました。

[奨励賞]

石本翔真 会員 (株式会社メルカリ (賞選考対象の発表時：北海道大学))

主な選考理由

石本翔真氏は、日本分類学会2022年度シンポジウム(2022年10月、北海道稚内市)において「独立性指標に基づく非線形構造抽出法を用いた実データ解析について」と題した優れた発表をし、優秀学生発表賞を受賞されました。さらに同氏は、それぞれIASCARS(2022年2月、京都府京都市)、COMPSTAT2022(2022年8月、イタリア・ボローニャ)の国際学会で発表を行うとともに、2022年に発行された国際誌JJSD(vol.5)にも論文が採録されるなど、非常に多くの研究成果を報告されています。以上の点から、奨励賞を授与しました。

[フェロー]

大津起夫 会員 (独立行政法人大学入試センター 参与・名誉教授)

授与理由

大津起夫氏は、大学入試センターが実施している大学入試試験に関する研究に関して、試験科目選択の統計的解析などを通じた研究や、大規模データベースのテキスト文での類似文書検索・全文検索による試験解答システムなど、分類学に関する研究を行ってこられました。研究内容の詳細については広く公開することが困難な面はありますが、これらの研究は社会的関心も高く、分類学の社会的貢献の点からも評価できます。大津会員が関心を持っている研究は、大学センター入試の出題範囲などの変化とも関連して、社会からも一層の研究が求められています。

本学会においては、運営委員(評議委員)を8期、編集委員会委員長・副委員長などを担当し、本学会の活動に顕著な貢献をなされています。

これまでの学会に対する貢献及び研究活動は、分類に関する研究の発展、学会活動、関連事業に多大な功績を挙げたと十分に考えられ、また今後共に活躍されることが大いに期待されることから、フェローの称号を授与しました。

○学会賞受賞者より

日本分類学会貢献賞を受賞して

栗原考次（京都女子大学データサイエンス学部）

2023年5月28日に京都女子大学で開催されました第42回大会において日本分類学会貢献賞を頂きました。誠に名誉なことと大変嬉しく思っております。これまでの研究活動でお世話になった先生方ならびに関係の皆様方に深く感謝致します。

日本分類学会には分類の理論と応用に関する研究会当時から会員として参加させていただいています。学会名の「分類」について、和文誌「データ分析の理論と応用」の創刊の辞として馬場康維会長（当時）はあらゆる科学の基礎であるという設立の広い意味を反映した機関誌名であると述べておられます。振り返ってみますと、私のこれまでの研究活動もそのような趣旨に近い形で進めてきたと感じています。

大学院時代から計算機集約的方法論（computer intensive methods）の研究を行っており、EDA（Exploratory Data Analysis）やデータ解析に有用な幅広い統計ツールの研究開発に興味がありました。統計プログラムパッケージの研究開発に従事していた関係で親しくさせていただいていた大隅昇先生のご紹介で、1996年から放送大学の「データとデータ解析」の講義を担当することになりました。4年後には再度開講の依頼があり、2001年からは林知己夫先生が1996年に神戸で開催されたIFCS国際会議基調講演で新たな方向性としてその理念と重要性を述べられた「データの科学」という授業を開講しました。データ解析やデータの科学に関連する専門科目を日本国内の多くの受講者に講義できたことは大変貴重な経験だったと思っています。また、1999年に文部科学省の在外研究員としてPennsylvania State UniversityのG. P. Patil先生の研究室を訪問した際、空間データを同位相に分類するEchelon技法が空間データの多様な解析に有用であると確信し、それ以降時空間データの階層構造と分類や集積性に関する研究を続けております。Echelon技法については、放送大学の講義の中でも紹介させていただきました。

学会活動としては、Chicagoで開催されたIFCS2004や第1回日独分類シンポジウムには参加させていただきましたが、本格的に参加させていただいたのは2012年に京都で開催された第4回日独分類シンポジウム、Capri島で開催された日伊分類シンポジウムからです。2013年以降は日本分類学会関連の国内外の学会には毎回参加させていただいています。

学会運営では、2017年から4年間日本分類学会の会長を担当させていただきました。学会運営の基本方針

は、これまで諸先輩達が築いてこられた国際研究交流を推進するとともに、持続可能性を考え国内の学術的交流の充実を図り会員の増強を行うこととしました。国際研究交流では、岡太彬訓先生や今泉忠先生方のご支援の下、ドイツ分類学会会長Berthold先生らとの連携を取りながら2018年7月の第7回日独分類シンポジウム（Dortmund）の開催、さらに、ECDA2018(Paderborn)、IFCS2019(Thessaloniki)において招待セッション等の企画などを行いました。国内においては、幹事長をしていただいた山本義郎先生（2017-18）、富田誠先生(2019-20)の協力の下、学年歴の変更、国内の学術会議の充実、学生発表賞の新設、学会事務の委託などの事業の整備を進めました。

最後になりましたが、本学会がさらに魅力あるものとなり、益々発展していくことを期待しております。



栗原考次（くりはらこうじ）

京都女子大学教授、理学博士、九州大学大学院総合理工学研究科博士課程情報システム学専攻中途退学（1984年8月）、大分大学工学部助手、岡山大学教養部講師、助教授、同大学環境

理工学部助教授、教授、同大学環境学研究科教授を経て2023年から京都女子大学データサイエンス学部初代学部長。2017年～2020年分類学会会長、2017年～IFCS理事、2022年～日本分類学会フェロー。

日本分類学会論文賞を受賞して

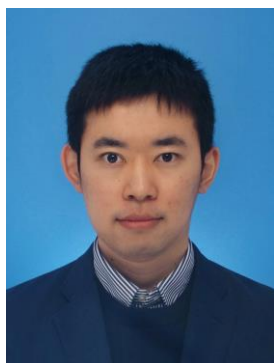
竹村祐亮（京都女子大学）

この度は、日本分類学会論文賞という大変名誉ある賞を賜りましたこと、大変光栄に存じます。この度の受賞は、共著者でもあります栗原考次先生（京都女子大学）、石岡文生先生（岡山大学）より多大なるご助言ご指導をいただいた結果にはかたじけなくありません。ここに心からの感謝を申し上げます。また、選考に携わっていただきました委員の先生方をはじめ、学会員の皆様、この場をお借りして深く謝意を表します。

今回の受賞対象となった論文は、私が岡山大学環境生命科学研究科在籍時に進めてまいりました研究結果について、Japanese Journal of Statistics and Data Science volume 5に採録いただいたものとなっております。本論文では、都道府県別かつ日別に収集されたCOVID-19感染者数のデータに対する時空間クラスター検出を試みております。時空間クラスターの検出

法としては、cylindrical scan 法が広く利用されておりますが、時間の経過に伴う形状の変化を表現できないという問題点が指摘されていました。また、時空間データは通常の空間データに比べて解析対象となる領域数が増えるため、任意の形状を持つ時空間クラスターを検出しようとすると計算コストが増加するという問題も抱えておりました。我々は、既存のクラスター検出法である echelon scan 法に対して、計算コストを押さえるとともに感染リスクの高い地域のみからなるクラスターが検出されるよう改良を施した adjusted echelon scan 法を開発し、先述の時空間データに適用いたしました。結果として、従来法では検出できなかったクラスターの変化を捉え、クラスターの発生・形状の変化に影響を与えたと考えられる社会的な要因を示すことができました。

本論文の執筆にあたり、初めての英語による論文執筆ということもあり、完成に至るまで多くの時間を要しましたが、当時の指導教官でもあります石岡先生には熱心にご指導いただきました。COVID-19 による影響でゼミ等の実施にも制限がある中で作り上げた論文ですので、今回の論文賞という形で評価していただけたこと大変嬉しく思います。今回の受賞を励みに、今まで以上に精進を重ね研究を進めてまいりたいと思います。この度は誠にありがとうございました。



竹村祐亮(たけむらゆうすけ)
2022 年 4 月 同志社大学特別研究員
2023 年 4 月 京都女子大学データサイエンス研究所助教

日本分類学会奨励賞を受賞して

石本翔真 (株式会社メルカリ)

このたびは、日本分類学会奨励賞に選出頂き、誠にありがとうございます。選考に携わった賞委員会の先生方に厚くお礼申し上げます。また、この名誉な賞を受けることができたのは、指導教員である南 弘征先生ならびに水田正弘先生からの熱心なご指導、そしていつも支えてくださった研究室の皆様のお陰です。心から感謝申し上げます。

今回の受賞対象となった「独立性指標に基づく非線

形構造抽出法を用いた実データ解析について」は、2022 年 10 月に北海道稚内市で開催された 2022 年度シンポジウムにおいて発表させていただきました。本発表では、変量間の非線形関係の大きさを定量化する指標である独立性指標を活用し、従来の次元縮小法を拡張することにより、多変量データから非線形構造を抽出する方法を提案しました。さらに、ある私立大学に対して 2011~2017 年の間に入学した学生の成績に関する実データを用いて、提案手法の応用例を紹介しました。従来の次元縮小法では発見できなかった変量間の関係を、提案手法によって明らかにすることが出来、大学生の就学状況における有用な示唆を導くことが出来ました。

本研究の発表に至るまで、南先生、水田先生にはたくさんのご助言をいただき、所属研究室の先輩方の研究も数多く参考にさせていただきました。また、本大会以外にも国内外の様々な学会で発表する機会を作ってください、他大学の教員から頂いた鋭いご指摘を基に、研究内容をブラッシュアップさせることが出来ました。加えて、本大会においても、他の講演者の素晴らしいご発表や学会関係者の方々からの貴重なご意見により、自身の研究における新たな課題や将来への展望を見出すことができました。誠にありがとうございます。

私は昨年 4 月から株式会社メルカリに就職し、サービス利用者の行動ログの解析を基にした、機能の改善提案や会社の成長機会の探索に尽力しています。アカデミックの世界からは離れてしまいましたが、本大会で得た知見や奨励賞をいただいた経験を励みに、今後も精進してまいります。



石本翔真 (いしもとしょうま)

2023 年北海道大学大学院情報科学院修士課程修了。同年 4 月株式会社メルカリ入社。

学会議事録等

○2023 年度総会議事録

日本分類学会 2023 年度総会 議事録

開催日時：2023 年 5 月 28 日 (日)、11:35-12:20

会 場：京都女子大学 E103 教室 ならびに

Zoom を用いたオンラインによる並行開催

■議長の選出

議長として、山下直人氏（関西大学）が推薦され、承認された。

議題

◆報告事項

1. 第42回大会について

栗原大会実行委員長より、2023年5月27日（土）～28日（日）に京都女子大学（京都府京都市）、およびオンラインで並行開催される第42回大会の準備状況について、報告がなされた。

2. 2023年度シンポジウムについて

宿久会長より、2023年度シンポジウムを西井龍映実行委員長（長崎大学）の下、12月2日（土）～3日（日）に長崎大学（長崎県長崎市）、およびオンラインの並行開催に向けて準備を進めている旨、報告がなされた。

3. 第8回日独分類シンポジウムについて

宿久会長より、第8回日独分類シンポジウムを南弘征実行委員長（北海道大学）の下、9月30日（土）～10月1日（日）に北海道大学（北海道札幌市）での開催に向けて準備を進めている旨、報告がなされた。

4. 2023年度データ分析セミナーについて

林邦好企画幹事より、2023年度第1回データ分析セミナーを6月17日（土）、6月24日（土）に開催する方向で準備を進めている旨、報告がなされた。また、講師、セミナーのテーマ、開催形式等について説明がなされた。

5. 2023年度統計関連学会連合大会について

宿久会長より、2023年度連合大会が2023年9月3日（日）～7日（木）に京都大学吉田キャンパス（京都府京都市）で開催される旨、報告がなされた。また、開催形式として一般セッションは対面のみである旨の説明がなされた。

6. ECDA2023について

宿久会長より、ECDA2023が2023年7月5日（水）～7日（金）にベルギー・アントワープで開催される旨、報告がなされた。

7. 和文誌について

大津編集委員会委員長より、和文誌編集委員会の新体制について報告がなされた。また、和文誌第12巻第1号の投稿状況等について報告がなされた。また、和文

誌第13巻第1号で予定している特集について説明がなされた。

8. 広報活動について

土田広報幹事より、従来の広報活動（会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等）を継続する旨、報告がなされた。

9. 学会賞について

今泉学会賞選考委員会委員長より、2023年度学会賞の受賞者について報告がなされた。

10. 2024年度の大会（第43回大会）について

宿久会長より、2024年度の大会は、山本義郎実行委員長（東海大学）の下、2024年5月中旬～6月初旬頃に東北地区で開催予定である旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

11. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 2022年度事業報告・会計報告について

石岡庶務幹事より、2022年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、2022年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。

2. 2022年度監査報告について

今泉監事より、業務執行状況に関し、おおむね適切に執行されている旨、報告がなされた。ただし、業務執行について以下の提言がなされた。

「2023-24年度の会長の候補者選出について、メール審議において審議前に候補者名が挙げられるという事案が発生したが、委員の指摘により、規則に則った適正な手順で修正執行された。この件に関して、今後はこのような事態の再発防止のための対応を求める。」

本件に関し、今後は規定を十分に確認の上、適切な執行に努めることを確認した。また、会計の監査について、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われている事が認められた旨、説明がなされた。

監査報告を受け、事業報告・会計報告について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

3. 2023年度事業計画および予算案について

石岡庶務幹事より、2023年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。

小田会計幹事より、2023年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。

以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

4. フェロー候補者について

今泉学会賞選考委員会委員長より、学会賞選考委員会で評議した結果、大津起夫氏をフェロー候補者として推薦したい旨の提案がなされた。

以上の提案について、全出席者の過半数の賛成で原案通り承認された。

5. その他

その他の審議事項なし。

■総会終了後、以下の通り学会賞の表彰式ならびにフェロー称号の授与式を行った。

【貢献賞】 栗原考次 会員 (京都女子大学 教授)

【論文賞】 竹村祐亮 会員 (京都女子大学 助教)

石岡文生 会員 (岡山大学 教授)

栗原考次 会員 (京都女子大学 教授)

【奨励賞】 石本翔真 会員 (北海道大学大学院 修士2年 (賞選考対象の発表時))

【フェロー称号】 大津起夫 会員 (大学入試センター 参与・名誉教授)

○評議員会議事録

・日本分類学会 2021-22年度 第9回評議員会 議事録

開催日時：2023年1月19日(木)、10:00-10:45

会場：Zoomによるオンラインでの開催

出席者(敬称略、会長以外は五十音順)：

宿久洋(会長、同志社大学)、

石岡文生(岡山大学)、岡太彬訓(立教大学)、

小田牧子(防衛医科大学校)、栗原考次(京都女子大学)、

清水信夫(統計数理研究所)、富田誠(横浜市立大学)、

豊田裕貴(法政大学)、馬場康維(統計数理研究所)、

林篤裕(名古屋工業大学)、山本義郎(東海大学)、

横山暁(青山学院大学)、吉野諒三(同志社大学)

今泉忠(監事、多摩大学)

委任状提出：

足立浩平(大阪大学)、大津起夫(大学入試センター)、狩野裕(大阪大学)、久保田貴文(多摩大学)、佐藤美佳(筑波大学)、竹内光悦(実践女子大学)、林文(東洋英和女学院大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数11名(評議員現在数の過半数)に対し、出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆審議事項

1. 会長候補の選出について

次期会長候補として、宿久洋氏が推薦された。宿久会長に一旦退席いただき、栗原考次氏が議長に選出された。次期会長について議論がなされ、宿久洋氏を会長候補とすることが承認された。

また、学会運営に関し種々の議論がなされ、各種規定に基づいた上で従来の運営方法を踏襲すること、ならびに運営方法を見直す場合には幹事会で改定案等を作成し、適切な手順を踏むことを確認した。

2. 入退会について

石岡庶務幹事より、前回の評議員会以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、正会員2名の入会、および正会員1名の退会について、原案の通り承認された。

3. その他

その他の審議事項なし。

◆報告事項

1. 2023年度統計関連学会連合大会 本会選出委員について

宿久会長より、2023年度連合大会における本学会選出委員について報告された。

・プログラム委員：高岸茉莉子氏(岡山大学)

・運営委員：山下直人氏(関西大学)

2. その他

宿久会長より、統計関連学会連合の欧文誌(JJSD)の編集委員が新体制になることに伴い、本会からCoordinating Editor(CE)を1名、Associate Editor(AE)を8名を選出した旨、報告された。

・CE：佐藤美佳氏(筑波大学)

・AE：飯塚誠也氏(岡山大学)、蔵川圭氏(独立行政法人大学改革支援・学位授与機構)、富田誠氏(横浜市立大学)、豊田裕貴氏(法政大学)、中村永友氏

(札幌学院大学), 中山厚穂 氏 (東京都立大学), 山本義郎 氏 (東海大学), 横山暁 氏 (青山学院大学),

宿久会長より, 役員改選に関し, 資料に基づき会長候補者 1 名, 監事候補者 2 名, 評議員候補者 39 名が選出された旨, 報告された。

日本分類学会 2023-24 年度 第 2 回評議員会(ネット) 議事録

日時: 2023 年 4 月 11 日 (火)~21 日 (金) (メールによる審議)

◆審議事項

下記審議事項について, 評議員会内規第 6 条に基づき承認された。

1. 2023-2024 年度の幹事の選出について

[幹事長] 中山厚穂 (東京都立大学)

[庶務] 阿部寛康 (京都大学), 石岡文生 (岡山大学), 竹内光悦 (実践女子大学), 富田誠 (横浜市立大学)

[会計] 小田牧子 (防衛医科大学校), 高岸茉莉子 (岡山大学)

[広報] 土田潤 (京都女子大学), 船山貴光 (東北大学)

[企画] 久保田貴文 (多摩大学), 豊田裕貴 (法政大学), 林邦好 (京都女子大学)

[渉外] 栗原考次 (京都女子大学), 佐藤美佳 (筑波大学), 山本義郎 (東海大学)

[渉外 (国際学会活動)] 酒折文武 (中央大学), 寺田吉孝 (大阪大学)

[ジャーナル] 大津起夫 (大学入試センター), 横山暁 (青山学院大学)

[IFCS Council] 栗原考次 (京都女子大学), 宿久洋 (同志社大学)

(評議員 21 名のうち回答者数 20 名。回答者数 20 名のうち, 賛成者数 20 名)

・日本分類学会 2023-24 年度 第 3 回評議員会 議事録

開催日時: 2023 年 5 月 26 日 (金), 17:00-18:00

会場: Zoom によるオンラインでの開催

出席者 (敬称略, 会長以外は五十音順):

宿久洋 (会長, 同志社大学),

足立浩平 (大阪大学), 石岡文生 (岡山大学),

大津起夫 (大学入試センター), 岡太彬訓 (立教大学),

小田牧子 (防衛医科大学校), 栗原考次 (京都女子大学), 竹内光悦 (実践女子大学), 土田潤 (京都女子大学), 富田誠 (横浜市立大学), 豊田裕貴 (法政大学), 中山厚穂 (東京都立大学), 馬場康維 (統計数理研究所), 林文 (東洋英和女学院大学), 山本義郎 (東海大学) 横山暁 (青山学院大学)

今泉忠 (監事, 多摩大学)

委任状提出:

狩野裕 (大阪大学), 久保田貴文 (多摩大学), 酒折文武 (中央大学), 佐藤美佳 (筑波大学), 吉野諒三 (同志社大学)

陪席幹事:

阿部寛康 (京都大学)

◆定足数の確認

評議員会定足数 11 名(評議員現在数の過半数)に対し, 出席者と委任状提出者数の合計が定足数を上回っていることが確認された。

◆報告事項

1. 第 42 回大会について

栗原大会実行委員長より, 2023 年 5 月 27 日 (土) ~ 28 日 (日) に京都女子大学 (京都府京都市), およびオンラインで並行開催される第 42 回大会の準備状況について, 報告がなされた。

2. 2023 年度シンポジウムについて

宿久会長より, 2023 年度シンポジウムを西井龍映実行委員長 (長崎大学) の下, 12 月 2 日 (土) ~3 日 (日) に長崎大学 (長崎県長崎市), およびオンラインの並行開催に向けて準備を進めている旨, 報告がなされた。

3. 第 8 回日独分類シンポジウムについて

宿久会長より, 第 8 回日独分類シンポジウムを南弘征実行委員長 (北海道大学) の下, 9 月 30 日 (土) ~10 月 1 日 (日) に北海道大学 (北海道札幌市) での開催に向けて準備を進めている旨, 報告がなされた。

4. 2023 年度データ分析セミナーについて

久保田企画幹事の代理で石岡庶務幹事より, 2023 年度第 1 回データ分析セミナーを 6 月 17 日 (土), 6 月 24 日 (土) に開催する方向で準備を進めている旨, 報告がなされた。また, 講師, セミナーのテーマ, 開催形式等について説明がなされた。

5. 2023 年度統計関連学会連合大会について

宿久会長より、2023年度連合大会が2023年9月3日（日）～7日（木）に京都大学吉田キャンパス（京都府京都市）で開催される旨、報告がなされた。また、一般セッションは対面のみで行うとの説明がなされた。

6. ECDA2023について

宿久会長より、ECDA2023が2023年7月5日（水）～7日（金）にベルギー・アントワープで開催される旨、報告がなされた。

7. 和文誌について

大津編集委員会委員長より、和文誌編集委員会の新体制について報告がなされた。また、和文誌第12巻第1号の投稿状況等について報告がなされた。また、和文誌第13巻第1号で予定している特集について説明がなされた。

8. 広報活動について

土田広報幹事より、従来の広報活動（会報の発行、速報性のある情報のメールニュース配信等）を継続する旨、報告がなされた。

9. 第5, 6, 7回日独分類シンポジウムおよび Post-Proceedings 出版について

今泉忠氏（同編集担当）より、発行が遅れている日独分類学会 Post-proceedings について、規定のページ数に到達したため、ドイツ側の担当者に必要なファイル等を提出した旨、報告がなされた。

10. その他

その他の報告事項なし。

◆審議事項

1. 入退会について

石岡庶務幹事より、前回評議員会以降の入退会希望者について、資料に基づき説明があり、審議の結果、7名の入会、および2名の退会について、原案の通り承認された。

2. 幹事の変更について

中山幹事長より、2023-24年度幹事会の体制について、高岸会計幹事を解嘱し、竹内庶務幹事を会計幹事に委嘱したい旨の提案がなされ、原案の通り承認された。

3. 2022年度事業報告について

石岡庶務幹事より、2022年度事業報告について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

ととなった。

4. 2022年度会計報告について

小田会計幹事より、2022年度会計報告について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

5. 2022年度監査報告について

今泉監事より、業務執行状況に関し、おおむね適切に執行されている旨、報告がなされた。ただし、業務執行について以下の提言がなされた。

「2023-24年度の会長の候補者選出について、メール審議において審議前に候補者名が挙げられるという事案が発生したが、評議員の指摘により、規則に則った適正な手順で修正執行された。この件に関して、今後はこのような事態の再発防止のための対応を求める。」本件に関し、今後は規定を十分に確認の上、適切な執行に努めることを確認した。また、会計の監査について、決算報告書が学会の状況を正しく反映し、学会の運営が適切に行われている事が認められた旨、説明がなされた。なお、監査報告書に上記業務執行状況の提言が適切に記述されていないことから、修正の上、評議員会にて再度確認することとなった。（修正された監査報告書について、その後5/27にメール審議にて評議員会で確認を行った）

6. 2023年度事業計画案について

石岡庶務幹事より、2023年度事業計画案について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

7. 2023年度予算案について

小田会計幹事より、2023年度予算案について、資料に基づき説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程することとなった。

8. 2024年度の大会（第43回大会）について

宿久会長より、2024年度の大会は、山本義郎実行委員長（東海大学）の下、2024年5月中旬～6月初旬頃に東北地区で開催予定である旨、説明がなされた。審議の結果、原案の通り承認された。

9. 学会賞について

今泉学会賞選考委員会委員長より、2023年度学会賞について下記の通り選考された旨、説明がなされた。

[貢献賞] 栗原考次 会員 (京都女子大学 教授)
[論文賞] 竹村祐亮 会員 (京都女子大学 助教)
石岡文生 会員 (岡山大学 教授)
栗原考次 会員 (京都女子大学 教授)
[奨励賞] 石本翔真 会員 (北海道大学大学院 修士 2
年 (賞選考対象の発表時))

審議の結果、原案の通り承認された。

10. フェロー候補者について

今泉学会賞選考委員会委員長より、2023 年度フェロー
称号について、

大津起夫 会員 (大学入試センター 参与・名誉教授)
が選考された旨、説明がなされた。

審議の結果、原案の通り承認され、総会に上程するこ
ととなった。

11. 2023 年度総会の次第について

石岡庶務幹事より、日本分類学会 2023 年度総会の議
事について説明がなされ、審議の結果、承認された。

12. その他

その他の審議事項なし。

・日本分類学会 2023-24 年度 第 4 回評議員会 (ネ ット) 議事録

日時：2023 年 11 月 21 日 (火) ～11 月 28 日 (火)
(メールによる審議)

◆審議事項

下記審議事項について、評議員会内規第 6 条に基づき
審議された。

1. 入退会について

3 名の正会員と 8 名の学生会員の入会について、原案
の通り承認された。

3 名の退会のうち 2 名については原案の通り承認され
たが、1 名については複数の評議員から意見が出たた
め、保留することとした。

科 目	予算額	決算	増減	備 考
I 収入の部				
1 入会金収入	20,000	8,000	△ 12,000	2,000 円 × 4 人(正会員4)
2 会費収入	907,000	878,000	△ 29,000	納入率78%
正会員	640,000	588,000	△ 72,000	5,000 円 × 114人(納入率:89%)
シニア会員	15,000	12,000	△ 3,000	3,000 円 × 4 人(納入率:87%)
学生会員	42,000	56,000	14,000	2,000 円 × 28人(納入率:74%)
賛助会員	150,000	150,000	0	30,000 円 × 3 社(納入率:100%)
前年度以前分	50,000	72,000	22,000	
前受金	10,000	20,000	10,000	
3 論文誌関係収入	290,000	376,100	86,100	
論文集売上	0	0	0	
手続集売上	0	0	0	
広告収入	160,000	210,000	50,000	50,000 × 3社+30,000 × 2社(Vol.11)
別刷代金	30,000	7,700	△ 22,300	別刷り(Vol.11)立替分
論文誌関係雑収入	100,000	158,400	58,400	Tax(仕料金)(Vol.11)、頁超過(Vol.11)立替分
4 雑収入	460,000	126,562	△ 333,438	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	0 雑立預金
セミナー参加費	460,000	45,000	△ 415,000	オンライン形式によりデータ分析セミナーを1回開催
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	50,000	50,000	第41回大会寄附
料子収入	0	2	2	2 銀行口座開庁
その他	0	31,560	31,560	募込関連の印(現金済み)
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
繰上り繰入	25,000	25,000	0	0 繰上り繰入
A 当期収入合計	1,702,000	1,413,662	△ 288,338	
B 前期繰越収支差額	3,676,322	3,676,322	0	
C 収 入 合 計 (A+B)	5,277,922	4,989,984	△ 288,338	
II 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	500,035	169,965	
和文誌	500,000	317,435	182,565	Vol.11、送料含む
別刷代金	30,000	7,700	22,300	
論文誌関係雑支出	100,000	19,800	80,200	Tax(仕料金)、カラー仕料金
J-Stage登録作業費	40,000	16,500	23,500	5000円(税別) × 3件
その他	0	138,600	△ 138,600	頁超過分
2 事業費	505,000	285,631	219,369	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	2022年度シンポジウム、第42回大会(前払い)
セミナー運営補助費	250,000	40,165	209,835	オンライン形式により開催されたデータ分析セミナーでの講師謝金
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	0	5,000	
学食費・フェロー経費	40,000	51,232	△ 11,232	学食費表彰状経費、フェロー認定経費
名簿作成	0	0	0	
選挙経費	70,000	42,234	27,766	
新入会員特典	40,000	32,000	8,000	9名利用
その他	0	0	0	
3 学食運営会合費	16,000	435	15,565	
幹事会・評議員会・総会等運営費	15,000	0	15,000	
その他	1,000	435	565	監査の際の旅料代
4 事務費	268,940	191,108	77,832	
事務委託費	150,440	150,165	275	統計情報研究開発センターへの事務員事務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	0	10,000	
事務用品・消耗品費	50,000	6,094	43,906	
ウェブ運営管理費	3,500	3,289	211	ドメイン維持費
会報印刷費	50,000	0	50,000	会報No.41を発行済み、発行時期の関係で支払いは次年度
印刷費	5,000	0	5,000	
その他	0	31,560	△ 31,560	募込関連の方への返金
5 通信・郵送費	70,000	41,257	28,743	
会報等送料	25,000	0	25,000	会報No.41を発行済み、発行時期の関係で支払いは次年度
会費請求等連絡通信費	30,000	20,748	9,252	会費請求に関する書類等の送付
その他	15,000	20,509	△ 5,509	学食費・フェローなどの書類郵送費等
6 負担金	20,220	20,165	55	
IFCS	0	0	0	
統計関連学会連合	20,220	20,165	55	2022年分(滞込手数料を含む)
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	
名簿作成のための積立	0	0	0	
選挙経費のための積立	0	0	0	
IFCS負担金のための積立	25,000	25,000	0	
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	
8 予備費	1,000	0	1,000	
D 当期支出合計	1,601,160	1,068,631	532,529	
E 当期収支差額 (A-D)	100,840	345,031	△ 244,191	
F 次期繰越収支差額 (C-D)	3,676,362	3,920,553	△ 244,191	
G 支 出 合 計 (D+F)	5,277,522	4,989,184	288,338	

日本分類学会会則第 10 条に基づき、2022 年 4 月 1 日より2023 年 3 月 31 日までの会計経理を監査した結果、
決算報告書の通り相違ないことを認めます。

2023年 4月 14日

監事

水田 正弘

印

監事

今泉 忠

印

(実際の決算報告書には自筆の署名と押印あり)

2023 年度予算
2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで

日本分類学会

単位:円

科 目	予算額	前年度予算	増減 (23-22)	備 考
I. 収入の部				
1 入会金収入	10,000	20,000	△ 10,000	2,000 円×5 人として算出
2 会費収入	837,000	907,000	△ 70,000	
正会員	575,000	640,000	△ 65,000	5,000 円×(184人×0.70+115人)として算出
シニア会員	12,000	15,000	△ 3,000	3,000 円×(8人×0.70+4人)として算出
学生会員	50,000	42,000	8,000	2,000 円×(35人×0.70+25人)として算出
賛助会員	150,000	150,000	0	50,000 円×3 口として算出
前年度以前分	50,000	50,000	0	2022年度実績は72,000円
前受金	0	10,000	△ 10,000	
3 論文誌関係収入	340,000	290,000	50,000	
論文集売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
予稿集売上	0	0	0	0 バックナンバー販売など
広告収入	210,000	160,000	50,000	論文誌 Vol.12 の広告収入。実績より算出。昨年度+5万
別刷代金	30,000	30,000	0	0 別刷り (Vol.12) 立替分
論文誌関係雑収入	100,000	100,000	0	0 Tax化料金、カラー印刷代金 (Vol.12) 立替分
4 雑収入	460,000	460,000	0	
大会・シンポジウム参加費	0	0	0	
セミナー参加費	460,000	460,000	0	0 データ分析セミナー(8月)、法政IM共催セミナー
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
寄付・広告等	0	0	0	
利息収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
5 繰入金収入	25,000	25,000	0	
積立より繰入	25,000	25,000	0	0 2023年、2024年のIFCS年会費
A 当期収入合計	1,672,000	1,702,000	△ 30,000	
B 前期繰越収支差額	3,920,553	3,575,522	345,031	
C 収入合計(A+B)	5,592,553	5,277,522	315,031	
II. 支出の部				
1 論文誌発行業務費	670,000	670,000	0	
和文誌	500,000	500,000	0	0 Vol.12送料を含む。
別刷代金	30,000	30,000	0	0 Vol.12
論文誌関係雑支出	100,000	100,000	0	0 Vol.12
J-Stage登録作業費	40,000	40,000	0	0 Vol.12、1論文あたり5000円(税後)
その他	0	0	0	
2 事業費	435,000	505,000	△ 70,000	
大会・シンポジウム運営補助費	100,000	100,000	0	0 大会とシンポジウムの補助
セミナー運営補助費	250,000	250,000	0	0 講師謝礼、交通費、資料作成費等
国際活動関連(セミナー費)	0	0	0	
広報費	5,000	5,000	0	0 学会パンフレット作成費
学会費・フェロー経費	40,000	40,000	0	0 海外費・Travel-宿泊費、大会参加費、海外学生奨励費
名簿作成	0	0	0	0 今年度実施計画なし。
選挙経費	0	70,000	△ 70,000	
新入会員特典	40,000	40,000	0	0 学生会員10人分の新入会員の大会、シンポジウム参加費
その他	0	0	0	
3 学会運営会合費	16,000	16,000	0	
幹事会・評議員会・総会等運営費	15,000	15,000	0	0 前年予算額
その他	1,000	1,000	0	0 前年予算額
4 事務費	334,280	268,940	65,340	
業務委託費	150,165	150,440	△ 275	0 統計情報研究開発センターへの事務局業務委託費
人件費(交通費含む)	10,000	10,000	0	
事務用品・消耗品費	50,000	50,000	0	0 前年予算額
ウェブ運営管理費	3,500	3,500	0	0 ドメイン維持費。実績より算出
会報印刷費	110,665	50,000	60,665	0 会報 No.42、60,665円加算(22年度分)
印刷費	5,000	5,000	0	0 開催案内、プログラムなど連絡用印刷費
その他	4,950	0	4,950	0 仲立ち口座のトランザクション費用
5 通信・郵送費	95,040	70,000	25,040	
会報等送料	50,040	25,000	25,040	0 会報 No.42、25,040円加算(22年度分)
会費請求等連絡通信費	30,000	30,000	0	0 会費請求に関する資料等の送付
その他	15,000	15,000	0	0 大会(総会)案内、執学会へのメール便、学会での送付物
6 負担金	70,165	20,220	49,945	
IFCS	50,000	0	50,000	
統計関連学会連合	20,165	20,220	△ 55	0 2023年度分。振込手数料を含む
7 積立	50,000	50,000	0	
特別事業のための積立	5,000	5,000	0	0 原則、独立採算として実施しているため
名簿作成のための積立	0	0	0	0 名簿作成を保留するため
選挙経費のための積立	25,000	0	25,000	0 選挙のための積立
IFCS負担金のための積立	0	25,000	△ 25,000	
日独分類シンポジウムのための積立	20,000	20,000	0	0 日独分類シンポジウム開催時のための積立
8 予備費	1,000	1,000	0	
D 当期支出合計	1,671,485	1,601,160	70,325	
E 当期収支差額(A-D)	515	100,840	△ 100,325	
F 次期繰越収支差額(C-E)	3,921,068	3,676,362	244,706	
G 支出合計(D+F)	5,592,553	5,277,522	315,031	

事務局から

●学会誌への論文投稿について

学会大会などで発表された研究などをできるだけ論文として投稿してください。皆様の投稿をお待ちしております。

和文誌：データ分析の理論と応用

会員の皆様の投稿をお待ちしております。

投稿先 E-mail: bda-submit@bunrui.jp

問い合わせ先 E-mail: bda-contact@bunrui.jp

なお、投稿規定、執筆要領、投稿用テンプレートについては以下のページをご参照ください。

<http://www.bunrui.jp/JCSJournal/>

欧文誌：

Advances in Data Analysis and Classification(ADAC)

ドイツ分類学会 (German Classification Society) およびイタリア分類学会 (Classification and Data Analysis Group) と共同で、2007 年より Springer 社から刊行しております (年間 3 冊)。欧文の論文はこちらにご投稿ください。また、日本分類学会会員は会員価格で購入できます。希望される方は学会事務局までお問い合わせください。

●会費納入のお願い

会費納入がまだお済でない方がいらっしゃいましたら、下記口座にお振込みいただきますようお願い申し上げます。

(1) 郵便振込の場合

口座番号：00130-6-445739

口座名：「日本分類学会 事務局」

ニホンブンレイガッカイジムキョク

(2) 銀行振込の場合：

ゆうちょ銀行 〇一九 (ゼロイチキョウ) 支店

口座番号：当座 0445739

口座名：「日本分類学会事務局」

ニホンブンレイガッカイジムキョク

●ご入会の手続きについて

入会を希望される方は、学会ホームページの「入会のお誘い」(<http://www.bunrui.jp/invitation.html>) のページにある入会申込用紙の所定の事項をご記入の上、日本分類学会事務局宛お送りください。詳しくは、「入会のお誘い」のページにある記入要領をご確認ください。申し込み後、幹事会にて入会の承認を行います。承認後、事務局より入会金・年会費などについてのご連絡を差し上げます。

■編集後記

今号に寄稿頂いた皆様におかれましては、お忙しいところありがとうございました。本紙面を借りて、お礼申し上げます。2023 年も本学会では、大会とシンポジウム、日独分類シンポジウムのすべてで対面とオンラインのハイブリッドの形で開催となりました。対面での懇親会も開催されるようになってきました。皆様と現地でお会いできることを楽しみにしております。

会報では学会活動報告の他、各種賞の受賞者の言葉なども盛り込み、発行していく予定です。また、メールニュース等でも情報発信をしております。ご意見、ご要望、その他会報に掲載すべきと思われる情報などございましたら、下記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

広報幹事：土田潤 (京都女子大学)、船山貴光 (東北大学)

広報委員：谷岡健資 (同志社大学)、横山暁 (青山学院大学)、山田実俊 (東海大学)

<学会問い合わせ先>

日本分類学会事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町 3-6 能楽書林ビル 5F

公益財団法人 統計情報研究開発センター内

日本分類学会事務局

E-mail: office@bunrui.jp (事務局)

URL: <http://www.bunrui.jp/>